

家庭科の男女共修をすすめる会

# 会報

'89 冬

連絡先

東京都渋谷区代々木2-21-11  
婦人会館内 〒151  
振替 東京九一―一九一八九一  
発行 一九八九年二月三日

## 男子校アンケートが集まりました

全国の中学・高校で家庭科の男女共修が行われることを願う立場から気がかりなのは、男子校での家庭科履修がどれだけ進むかということです。

そこで、「会」では、新教育課程での家庭科の男女必修が男子校でどう受けとめられているかアンケート調査を実施しました。

十月十九日、世話人は婦人会館に集まり、全国の国公立の高校のうち、女子がいない、あるいは極めて少い高校を選び出してアンケート用紙を発送しました。発送数は五四三、回答があったのは二二九校。回収率は四二・一%。アンケートとしては高率でした。新しく必修になったといっても男子校では家庭科に対しては関心が低いのではないか、だから

回答もあまりないのではないかという危惧は吹きとばされました。

忙しい中、まじめに回答を寄せて下さった各校の関係の方々には心から感謝したいと思います。

回答校の内訳は――

国立 普通科1  
公立 普通科16 工業106 水産11 農業2  
商業1 普・商他1 農・工1 計142  
私立 普通科49 工業5 商業2 普・工13  
普・商8 普・工・商7 普・農1  
普その他2 計87

24校は中学から続いている学校です。

回答をみますと、大体予想されたような問題点が浮び上って来ています。

## もくじ

男子校アンケートが集まりました……	(1)
質問文と回答のまとめ……	(2)
回答結果をみて……	(8)
国会議員にもアンケート……	(9)
NHKモーニングワイドで……	(9)
京都における府立高校家庭科の現状……	(10)
各地の状況……	(11)
東京都議会から……	(12)
第35回日本母親大会の総括……	(13)
連絡会報告……	(14)
世話人会報告……	(15)
クロワッサンで会を紹介……	(15)
また一つ難問、高校の移行措置……	(16)

「男子の家庭科履修はよいこと」という声もかなりあるものの、伝統的な役割分担意識もまだ根深く、男女の役割の変更に必要性は十分理解されているとは言えません。

「会」ではこの結果を参考にして、行政に向けてはどんな要求をすべきか、現場の情報交換をすすめるためにはどうしたらよいか、そして女子差別撤廃条約の精神を浸透させるために何をすべきか考えて行きます。

(梶谷 典子)

★★質問文と回答のまとめ★★

問1 校名 国公立の別

中・高・六年制の別 学科別

問2 所在地(都道府県別)

問3 一九九三年から中学校で、一九九四年から高等学校で家庭科の必修が全面実施になります。そのことをご存じですか。

ア知っている イ少しは知っている

ウ知らない

問4 中学校では「技術・家庭」のうち木材加工、電気、家庭生活、食物の四領域は全員が必修、残りの金属加工、機械、栽培、情報基礎、被服、住居、保育の七領域から三領域以上を選択履修させることになっていますが、このことをご存じですか。

ア知っている イあらまは知っている

ウ知らない

問5 中学校「技術・家庭」の選択領域から三つを選ぶとすれば、どれを選びますか。(またはどれを選ぶのがよいとお考えですか)

ア金属加工 イ機械 ウ栽培

エ情報基礎 あ被服 い住居 う保育

問6 この場合の選択はどんな取扱いにする(またはしたい)ご予定ですか。

ア学校選択 イ個人選択 ウ両方の併用

エその他

公立国公立 私立私立 普通科だけの学校 職業科のみ又は職業科と普通科のある学校 (数字は回答校数)

問3 家庭科必修の全面実施を……

無記入	知らない	少しは……	知っている	
		1	17	公 普
4		1	119	公 職
4		2	136	公 計
	2	7	40	私 普
1	1	2	34	私 職
1	3	9	74	私 計
5	3	11	210	総 計

問4 中学での領域選択を……

無記入	知らない	あらまは	知っている	
8	2	3	5	公 普
86	3	20	15	公 職
94	5	23	20	公 計
16	5	12	16	私 普
25	3	2	8	私 職
41	8	14	24	私 計
135	13	37	44	総 計

問5 中学の選択領域の中では何を……

無記入	ア エ あ	イ エ い	ウ エ う	イ う い	エ い う	ウ エ う	エ	アイ ウ	アイ エ	イ ウ エ	上段23・ 24行め参照
15						1		1		1	公 普
109	1			1	5	2	1		3	2	公 職
124	1			1	5	3	1	1	3	3	公 計
49											私 普
32		1	1				2		2		私 職
81		1	1				2		2		私 計
205	1	1	1	1	5	3	3	1	5	3	総 計

高等学校では、家庭一般、生活技術、生活一般の中から一科目4単位を選択必修することが決定しています。このことについて次の問にお答えください。

問a 選択必修という(履修の)取扱いについて

ア賛成 イ反対 ウどちらともいえない

問b 貴校では学校選択にしますか、個人選択にしますか。

ア学校選択にしたい イ個人選択にしたい

ウまだ決めていない

問c 貴校では、三科目のうち内容からいくつかの科目が適切だとお考えになりますか。

ア家庭一般 イ生活技術 ウ生活一般

問d 上記の選択理由をお聞かせください。

理由( )

問e 生活一般の後半2単位を他で代替する場合は内容と理由をお聞かせください。

内容( )

理由( )

問f 中学校一九九三年、高等学校一九九四年完全実施に向けて、貴校ではどんな準備を始められますか。教員採用、施設設備の整備についての年度計画をお聞かせください。

一九八九年度  
一九九〇年度  
一九九一年度

問6 中学の領域選択の取扱い

無記入	その他	両方併用	個人選択	学校選択	
15		1	1	1	公 普
109	2	4	1	8	公 職
124	2	5	2	9	公 計
22	2	3		22	私 普
31	1	1	1	4	私 職
53	3	4	1	26	私 計
177	5	9	3	35	総 計

問a 高校の選択必修に……

無記入	どちらとも	反対	賛成	
1	7	1	9	公 普
8	50	10	56	公 職
9	57	11	65	公 計
	26	11	12	私 普
2	20	4	12	私 職
2	46	15	24	私 計
11	103	26	89	総 計

問b 高校で学校選択か個人選択か

無記入	未決定	個人選択	学校選択	
1	8		9	公 普
6	52	4	62	公 職
7	60	4	71	公 計
1	23	1	24	私 普
3	18		17	私 職
4	41	1	41	私 計
11	101	5	112	総 計

問c 高校でどの科目を……

無記入	未定と	生活一般	生活技術	家庭一般	
3	9	7			公 普
31	38	52	5		公 職
34	47	59	5		公 計
8	19	19	4		私 普
12	11	15	2		私 職
20	30	34	6		私 計
54	77	93	11		総 計

(2科目に○をつけた6校を含む)

一九九二年度  
一九九三年度

問9 家庭科が中学校、高等学校で男女とも必修になったことについてのご意見を何でもお書き下さい。

問h 家庭科の男女共修をすすめる運動についてご意見をお聞かせ下さい。

問dの回答 (記述を分類してみました。数字は公立と私立、普通科と職業科を合わせた回答数です。)

「家庭一般」を選択する理由

- 生活に必要な知識や技術が修得できる1
  - 全般にわたり、家庭生活の充実に向上を図る内容になっている1
  - 基礎的な内容で学習する必要がある1
  - 他の科目は内容が表面的、間接的である1
  - 基本的な学習ができる1
  - 本校としては初めての試みなので取り組みやすい1
- 「生活技術」を選択する理由
- △工業高校・本校に適している△

- 技術指導の関連で導入・移行しやすい3
- 工業その他の科目で代替できる5(うち普通科1)
- 技術中心であり、他の科目より興味を持ちやすい2
- 電気・機械・情報処理の授業が可能で、工業と関係が深く、特性が生かせる6(普通科1)
- 本校に適している13(普通科1)
- △施設設備の関係から△
  - 施設設備教師の陣容からみて流用できる15(普通科3)
  - 被服・調理の実習設備が整備されていない2(普通科1)
- 条件整備に時間がかかる2(普通科1)
- △学習内容から△
  - 技術的内容に重点がおかれている。専門に近い5
  - 時代に合っている。内容が身近か2(普通科のみ)
  - 学習が多様化できる1
  - 科学的思考を高められる1(普通科のみ)
- 家庭一般の内容と家庭園芸を指導したい1
- 家庭生活における男子の役割と技術の習得をさせたい1(普通科のみ)
- 夫・父親として、家庭を創造していくた

問e 「生活一般」後半2単位の代替の内容

	公普	公職	公計	私普	私職	私計	総計
体育	5	3	8	5	2	7	15
情報基礎 情報処理		15	15		2	2	17
工業基礎		9	9	2	2	4	13
専門科目 基礎		3	3			3	3
その他				2	1	3	3
代替しない		2	2				
未定	3	3	6	5	2	7	13
無記入	8	39	47	17	13	30	77

問e 代替に選んだ理由

△体育△

施設設備がない・条件整備6 男子生徒のため2 家庭科そのものが初めて・様子をみる1 予想される状況から最適2 11単

めの自覚の方向づけをしたい2

- 生活技術が高度になるのに対応して6(普通科2)
- 被服製作が内容に入っていない1
- 男子校としてとりくみやすい、男子向きの内容9(普通科5)

△その他△

- 共学をさせたいから2(普通科1)
  - 4単位の場合全学的に履修させたい1
  - 定時制なので4単位は履修できない1
  - 中学校と関連が深い1(普通科のみ)
- 「生活一般」を選択する理由
- △後半2単位を代替できる△

- 体育・工業・情報基礎・専門科目で代替できる26(普通科4)
- 家庭科は2単位が適当1
- 専門科目の単位数確保4(普通科1)
- △施設設備関係△
  - 急な拡充は困難・家庭科室の設備がない12(普通科9)
- 指導者・条件整備に時間がかかる1(普通科のみ)
- 4単位の家庭科教員の確保が困難1
- 施設設備指導者の流用ができる3
- △目標・内容面から△
  - 一般教養として、生活全般の学習ができる2

位履修確保1 他科目を指定していない2

家庭科4単位は実施困難1 生徒の実態に即して1 教員配置1

△情報基礎・情報処理△

施設設備・指導教師が充足できる3 すんなり移行できる1 専門の人数減が補える2 4単位の捻出困難2 教師・生徒の興味・関心2 家庭科の設備不十分2 情報関係時間不足1 どの単位を削除するかが問題3 全学科に共通履修できる1 工業高校だから1 現在選択科目に入れているから1 情報教育に力を入れたい1

△工業基礎△

現有設備が使える1 家庭科の施設設備がない3 全学科の生徒が履修する1 工業科の時間数確保4 カリキュラムを組み実施している1 現有設備が使える1

△専門科目基礎△

専門科目単位数との関連2 4単位分の家庭科教員の確保に問題1

△その他△受検科目・総合学習△

家庭科以上の教育理念でとらえている1 大学受験教科に身を入れないと本校の存立にかかわる1

問dと問eの回答は短い記述が多く、意味がよくわからないところもありました。

問f 家庭科必修の準備―教員採用、施設設備の整備についての年度計画

◇計画の有無

計画している学校は四八校で、回答校比で見ると二一％に過ぎませんが、'89、'93年度まで計画している学校が一五校で最も多いが六・五％に過ぎません。他に検討中というものが二六校あります。

計画していない学校は空欄三八校を含め一五五校（六七・四％）で、内訳は次の通りです。未定・計画なし・準備していない・考えていない・具体化していない・未検討を合わせて六四％です。

公立の職業科五校から、教委の範囲・行政の対応を待っている。学校独自では考えられない。学校現場へはこれらの計画案はまだ知らされていない。などの回答もありました。

その他、家庭科教員の定数内採用は無理、施設設備計画なし、国庫補助の状況をみてなどの私立校からの声もありました。

◇年度計画の例

年度計画が五年間記入されていた中から、次の例を紹介します。

―A校―私立、普・工・商併設

'89年度―新カリキュラム検討委員会（教務・

科長・教科長・校長・教頭）を設置

'90・'91年度―新カリキュラム検討委員会、各科のカリキュラム検討

'92年度―新カリキュラム検討委員会から、施設設備の整備について、施設設備検討委員会にかけける。

'93年度―教員採用計画案の確立、施設設備の整備を完了

―B校―私立、普通科

'89年度―内容の検討及びカリキュラム準備

'90年度―カリキュラム編成開始

'91年度―施設設備の検討

'92年度―カリキュラム完成

'93年度―施設設備完成

―C校―公立、工業科

'89年度―平成三年度より、女子も入学させるよう現学習指導要領のもとで検討中

'90年度―施設設備（女子トイレ、更衣室、家庭科室）の整備、家庭科教員の確保

'91年度―平成三年度入学生より女子入学予定

'92年度―新学習要領のための教育課程の最終的編成完了

'93年度―施設設備（家庭科室、同備品等）の整備、家庭科教員の確保

―D校―公立、普通科

'89・'90年度―教育課程の検討

'91年度―施設設備の整備

'92年度―教員の採用

'93年度―施設設備の整備完了

問g 家庭科が男女とも必修になったことについて

回答欄に書いてあった文を「賛成」「反対」「その他」に分けましたが賛成六八、反対一二、その他一〇〇でした。さらに、公立と私立の回答数から比率を出してみると、その他の％は公・私ほぼ同じですが反対は公立が少なく、私立の三分の一です。賛成は公立が三九％で私立はそれよりやや低くなっています。

◇賛成意見の例

★健全な家庭生活を営むための基本的知識は男子にとっても大切なことである（公普）

★今の世の中は、社会と家庭との関連が薄くなっているように思う。しっかりした家庭を築くためにも男女必修は、お互いの理解のため必要だと考えます（公工）

★改定されるのが当然と考えられることであり、時期的には遅過ぎたと思われる（社会の諸変化への対応からみて）（公水産）

★家庭科の理念として、生活を切り開く力をつけることや、性・生を直接的に扱う教材であるから当然男女共学共修がのぞましい（私普）

★家庭が生活の基本的な場であり、家族は夫婦を中心に男女より構成されるので、家庭生活の意義や、衣食住に関する基本的知識や技術を学びとることに意義がある（私普）

★核家族がふえ、夫婦共働きが増えている現状において、家庭内の仕事を協力して進めていくことは望ましい。家庭を築いていく上で、ぜひとも必要なことです。その意味において、中・高教育でその端緒となる家庭科の男女共修への移行は望ましいと思います（私工）

★生活全般を理解する意味では大変良い教材と考えます（私商）

◇反対意見の例

きっぱり反対を述べているのは十二校ですが例を挙げると

★反対―現在の時間の減少をきたす（公工）

★必修にして学ばせるような内容は何もない（公工）

★大学受験のため実施しないでしょう（私普）

★家庭科は学校でやるべき科目ではない（私普）

★必要ないと思うので名目は家庭科でも他の内容にする（私普）

★男子校の特色から考えて必要なし（私普）

★基本的には反対（公普・私工）

私立の普通科の例を多く挙げましたが、反対意見を書いた一二校中八校が私立普通科でした。

◇その他

その他については、内容はさまざまですがまとめると――

★困惑している・苦慮しているなど二一

★時代の流れで仕方がない一〇

★必修にする必要はない八

★教育課程の編成上苦慮している五

教員、施設設備がないなど条件整備に関したのも多く、生徒の興味関心に疑問を持っているという答もあり、何れにしろ、戸惑っている状況を感じます。

問h 家庭科の男女共修をすすめる運動についての意見

この問に回答をよせられた数は一一三校で回答数の約半数でした。内容を「はげまし」「要望」「運動に反対」「その他」に分けてみました。

◇はげまし

「はげまし」の内容は二八校ですが、大いに推進してほしい、今後男女共学は必要だ、良いことだ、賛成というものが一六ありましたが、

★大変すばらしい運動だ健闘を祈る。

★根気強く運動を続けてください（両性が個性を発揮し相互理解協力できるよう）。

★貴会のような団体の運動で意識変革がすすむ。  
などが主なものでした。

◇要望

「要望」の内容が最も多く、四六枚から、教員養成、施設設備、家庭科の男子教員の養成を運動の内容に入れてほしいというものが多くありましたが例をあげると、

★教科書の内容、各校のとり組みの実態に目を光らせ本当の意味の共修が実現するよう運動を盛りあげてください。

★内容を早目に情報化して欲しい。会報活動などで経験交流ができるようにしてほしい。  
★アンケートの回収結果など世論を把えて、対策・検討して知らせしてほしい。

◇積極的な学校の例

或る私立普通科の学校では、①共修の際技能・技術の修得が男女それぞれに深めなければならぬ点の先進的研究。②物づくりに終始している現在の家庭科からの転換を啓もう

する(単に担当者だけでなく学校全体に)。

③性Ⅱ生が教科の根底にしっかり位置づけられるような多方面への啓もう活動。④男女共修の授業実践例の掘りおこし。と書いてありましたがこの学校は、三科目の中から「家庭一般」を選んでいきます。

#### ◇反対

「運動に反対」七校では、

★反対運動なら声援を送りたい。

★現場無視の運動・男子校では賛成できない(公立工業)。

★運動するまでもない(公、私の職業科)。

★つまらないことに貴重な時間を費やすのは無意味だ(私立普通科)。

と短刀直入でした。

#### ◇その他

「その他」は三校ですが、要するに必修には反対であること、いろいろ問題を抱えている、性による役割分担肯定などが根底にあり賛成しかねるということのようです。

### ★★回答結果を見て★★

#### 特徴的なこと

●家庭科の男女必修に関心が高まっています。

回答率四二・一％は予想以上でした。問8

の必修についての意見欄には一五九校が書いています。賛成、反対を問わず記述することはそのことに関心を示しているのだと思います。家庭科の男女共修をすすめる会(どんな会かよく理解できていないと思いますが)に多くの要望を寄せたことにも驚きました。

また、九三年度から中学、九四年度から家庭科の必修が全面実施になることは、九〇％以上の学校が知っていました。

中学問題(問4・5・6)の回答が少なかつたのは、中学校に直接関係する学校が少ないことが理由と思われる(中学がない場合記入しなくてよいとしましたので)。

#### ●情報教育に関心集中

問5の「技・家」の選択項目の選び方に記入したものは一〇・五％しかありませんが、三領域の中に「家庭」領域を入れたのは921でした。特徴的なのは一〇種の選び方のうち情報基礎を入れない学校は二校だけだったことです。

「生活一般」の後半二単位を代替する場合も、その内容は職業科では四七・二％が情報をえらんでいます。

●三科目の中から「家庭一般」を選んだ学校が八校(三・五％)

八校のうち五校は学習内容から選択しています。例えば「全般にわたり家庭生活の充実向上を図る内容になっている」などです。

#### まとめ

予想した問題点が結果に現われています。個人選択にするという学校は少く、大多数が学校選択で、「家庭一般」を適当とするところは僅かです。やはり「男子には『生活技術』か『生活一般』を」という傾向は強いようです。文部省のねらいは当たったと言えるのでしょうか。

職業高校は「生活技術」を適当とするところが多く、「生活一般」の後半二単位の代替は、職業高校では技術教育、普通科では体育という傾向です。そして「生活一般」を選択するのは二単位ですむ、専門教科を減らさないですむ、ということのようです。

内容的には、被服は切り捨てられそうです。公立高校は条件整備待ち、条件が整えばやるという傾向ですが、私立校の中にははっきり性別役割分業の立場に立っているところもあります。

集計・まとめ 持田ナミ

### 国会議員にも

#### アンケート

石川 由紀

11月8日、40人いる女性国会議員へ「男女共学・必修家庭科についてのアンケート」を送った。マドンナ旋風と呼ばれた今年、女性のための施策をかかげてのデビューの諸先生方だから、このアンケートの結果に期待したのだが、12月4日現在、戻ってきたのは13通。内1通は「この種のアンケートはすべてお断りしています」というものだった。集計は次回にしますが、質問の概要は、

問1. 小中高全てで、家庭科を男女とも必修にすることが決まったが、どう思うか。

問2. 「女子差別撤廃条約」の条文の中で、家庭科の男女共修と特に関係の深いのはどの項目と考えるか。

問3. 共修をすすめるためにはどんな施策が必要か。また、ご自身はこのことについてどのような活動をしてくださるのか。

問4. 男女平等をすすめるために行政施策として優先すべき事柄を三つ。また、ご自身はどのような活動をしてくださるのか。

届いた有効回答は全て共修に賛成。国会の質疑でとりあげてくださるという方も。

参議院公明党の刈田貞子議員はさっそく11月15日の参議院決算委で家庭科共修について質問してくださった(詳細は次号)。他の方々にも今後協力していただけるものと思う。

別に、現在開会中の衆院文教委員会で、近く質問に立つ予定の江田五月議員には11月30日に文部省から出た「移行措置について」の文書に関連し、当会が行った「男子校」へのアンケート結果を送り、学校現場の実状と文部省の進行計画との間に問題はないのかを正していただくよう、要請した。

#### NHK

#### モーニングワイドで

★十二月一日、文部省の移行措置の発表を受けて、NHKモーニングワイドで男子の家庭科履修の問題が取り上げられ、会の行ったアンケートも紹介された。

男子校の豊島実業高校では今年五月に家庭科の検討委員会を作り、とまどいながらも二一世紀には共かせぎ、単身赴任ももっとふえ

るとし、いずれの時でも衣食住を守っていきける生徒を育てたいと語ったが、駒場東邦高の教頭は家庭科を学ぶことと大学進学への直接的効果をはかりかねると頭をひねっていた。明治学院大の丸山氏は世界的にみても家庭は男女が共同責任を持つものという風潮にあり、高校時代男子が家事労働の基本を身につけておくべきだと語っていた。

(中嶋 里美)

★「大学受験に役立たない」からと苦慮している進学校の駒場東邦高、「もう時代が」と検討中の豊島実業、この二つの私立男子校の現状を伝える一方で男子生徒がキーキを作っている都立共学校の四谷商業の画面は、少なくとも生徒は拒否していないと伝えていた。「男子に家庭科はいらない」という声はあまり聞かれなくなったが、「家庭科をやっている時間がない」という声は続きそうである。当然の事柄として共修問題がニュースに取り上げられない日が来るのを願っている。

(石川 由紀)

## 京都における

### 府立高校家庭科の現状

——ねらい打ちにされる

共修家庭科——

森 幸枝

一九七三年革新府政のもとで、昭和四十八年度改訂を機に全府立高校において制度的な保障を獲得し推進して来た男女共修の「家庭一般（二単位）」は、今日の反動的教育行政の進学一辺倒の施策の中で、次第に切り崩しに見舞われています。

実施以来何の事故もなく、それどころか、各地域各々での生徒達の感想文やアンケート結果等々（親や他教科からの評価も含む）で、すでにその定着は明らかでした。

ところが、現府教委は一九八五年の京都独自の高校教育制度改悪（三原則をつぶし、普通科を類・系など七種類に分ける）の後、年々その管理体制、教育介入の度合を強めて来ており、とくにここ一、二年はファッショ的な様相を呈しています。例えば

(1)カリキュラムの編成権は校長に

実質は府教委、職員会議での決議は全く無視される。

(2)類別、系列によるカリキュラムの格差の拡大を強制する（教科書も変えさせる）

生徒の実態とは無関係に、親が一目でそれと判るように編成せよ。

(3)職員会議を全くの連絡調整機関とする  
漸次、教職員のヤル気の喪失や発言の減少が必然的にみられる。

(4)学校運営を一方的に押しつける

こうした条件の中では、どうしても結果として男女共修家庭科がねらい打ちにされ易く、また、女子差別撤廃条約などは全く眼中にないのです。「進学には家庭科は要らない」と明言したり、「家庭科は必要に迫られれば出来る（内容を理解していない）」という校長。また「積年の共修の評価はする。時代的な必要性もよく判る。しかし今は仕方がないので……」という校長も何人かいます。

現行女子必修四単位、技術主義の家庭科に戻そうとする府教委のもと、現在は、一九八三年以降の新設校（普七、職二）が準備室の段階で家庭科教師とは無関係に女子必修四単位を位置づけて来たのに加え、一部（類による）または全部が女子必修に戻された学校が

増えて来ています。しかし、なお、各校での十数年にわたる実績と、家庭科教師を中心とする並々ならない努力に支えられて、何とか目前に迫る男女共修の実施につなげたいとがんばっている学校も数多く、<sup>3</sup>は健在です。

一方、一九八九年度には数少ない家庭科採用者にはじめて男性一名があり、女の城を打ち破るよい傾向とも受け止めたが（女子必修校に配置）、彼の意図とは関係なく、実質的には来るべきコンピュータ研修の要員とするつもりなのではと考えられるのが現状です。また、一九九〇年度は府立高校家庭科の募集がゼロであるとか、十八時間あっても講師ですませているような実態は、男女共修の実施年に向けて絶対に「家庭一般（四単位）」の実現を願っている家庭科教師にとっては、深い危惧を持たざるを得ません。

要するに、もともと大学進学を増強することが現府政の公約であり、今、そのためには手段を選ばないとする教育行政が、直接受験に関係のうすい教科を軽視する激流の中に家庭科もさらされているということです。従って、とにかく授業のなかみで勝負するのだとの決意を新たにし、ともすれば落ち込み勝ちになる仲間を励まして、従来のように一致団結して進むことが今日の重要な課題です。

## 各地の状況

和田 典子

### 教研集会から

#### △三重県高教組、中勢支部集会▽

10月19日、津高校でひらかれ支部から（全県四支部の一つ）35名が参加して、男女共修をテーマに午後いっぱい報告と話し合いを行いました。各分会でのとりくみは、まだ始まったばかりという状況が大勢でした。

レポートのなかには①三校が共同で行なった実態調査によれば、教師の働きかけのない学校では「家庭」が共修になることを知らない者が70～90%にのぼっているが、半数以上は共修に賛成している、といった内容のものや、②三年で四単位の「家庭一般」男女共修の実践例（津商業高校、堀川恭子報告）もありました。しかし、和田への助言依頼からもわかるように、共修への関心は急速に高まってきていることが実感できました。

#### △東京都教連集会▽

11月11・12日の両日、志村高校で小中高合同の家庭科分科会では7本のレポートをうけ

て、①子ども・地域の現状と教師のなやみ、

②学習指導要領批評、③授業実践の検討、④その他について話し合いを深めました。参加者はのべ35名と例年なみでしたが、参加者をひろげる課題と「選択もんだい」とどう対決するかの討議は、不十分なままで終わりました。

#### △家庭科男女共修問題研究交流集会▽

日高教などの主催による右の会が、11月25・26の両日にわたって滋賀県大津市のさざなみ荘でひらかれました（参加数未確認）。

記念講演「いま、なぜ家庭科の男女共修か」安田雅子・橘女子大講師。特別実践報告（京都）のあと、分散会にわかれて

(1) 新学習指導要領のねらいをあきらかにする。

(2) 全国の家庭科の現状交流

(3) 私たちのめざす家庭科教育

(4) 男女共修4単位をどうすすめるか

について話し合いをすすめました。

尚、よびかけは近畿府県の高校あてと全国各県・高教組執行委員長、教文部長あてにと分けられました。

#### △鳥取県の集会▽

10月29日にもたれましたが、教科別分科会への参加が3名と少なかったため「女子教育」分科会と合同し、9名（うち男子組合幹部3

名）で話し合いをすすめました。

県内家庭科教師の状況は、小学校では学級担任の男教師がほとんど、中学校でも中部7校中専任は3名であとは非常勤か兼任が多く、そのため校長の管理に流れやすいといえます。なお「女子教育」のレポートは、職場の男女差別や労働問題が多いとのことでした。

以上は、本橋靖子世話人からの情報です。

### そのほかの動き

#### △家庭科を考える男子の会▽

京都府立西舞鶴高校にこの四月から男性の家庭科教師が就任しました。京都教育大（院）新卒の山内拓司さんですが、彼などが呼びかけて、この組織の育成をはかっています。

昨年度発足した「男子家庭科学生」の会、を発展させたもので、現在会員13名とのこと。

連絡先電話は〇一六六・五四・〇三〇〇江口

#### △伝達講習会のようす▽

浦和市の小学校、東京千代田区の中学校、茨城県の高等学校から得た教委主催の学習指導要領の伝達講習会に共通しているのは、文部省の指導書をオオムがえしに伝えているだけで、質問時間もごく少なく通り一辺の回答しか得られないが、教材や配当時間などについては、具体的な指示があったとのこと。



## 東京都議会から

石川 由紀

十月五日、厚生文教委員会における青木議員の質問に対する応答をご紹介します。これは各自治体においても同様な質疑応答がなされるのではないかと考えられます。なぜならば、国際婦人年をきっかけとして、男女平等社会へ向けての行動計画が各自治体で作られ、その計画に従って教育の男女平等化がすすめられている筈であり、家庭科の男女共修ということもすすめられている筈であるからです。ですから、ここに紹介するような質問がすでになされている自治体をご存じの方は、ぜひ会の方へ資料を送っていただきたいと思います。すし、まだなされていないのであれば、ぜひ実態を知る上でも、質問をしてくださるよう議員に働きかけていただきたいと思います。以下青木議員をQ、都側をAで記します。

Q 婦人問題解決のための新東京行動計画、いわゆる「男女の平等と共同参加へのとうきょうプラン」の中で、中学、高校の家庭

科における男女共修の推進を施策としていふということを確認の上で、中学の技術・家庭科の別学校中、女子が技術系列を一領域、男子が家庭系列を一領域とっているのが、前者が二八二校で四割、後者が一九八校で三割に満たないという実態の原因を調査しているのか。

A 現行の学習指導要領そのものがこういう仕組みになっていることの他に、それぞれ必要に応じて男子だけ、女子だけという学習形態も組まざるを得ない。

Q とうきょうプランに基づいて、積極的指導をしているのか。

A 教育課程の編成は、学校長がそれぞれの所属職員と児童生徒の実態、地域の実態等を踏まえて行っているものでこのような形になっている。

Q 家庭一般の男子履修校が普通科全日制においては、一校のみで、六一年から平成元年度まで、変化がないが、どういう理由か。

A 施設設備の状況とか教員の配置の問題とか、現行の学習指導要領の線ですすんでいる状況の中ではにわかに変更できない。

Q 国が変えるというまで何もなかったのか。

A 委員会等で研究をすすめている。

Q 新指導要領の実施に向けての教師の数、

施設設備の整備の具体的プランは。  
A 平成六年から実施した場合、六年・七年と二年間にわたり、計二五〇人前後の教員を新採用する必要がある。都の高校家庭科教員免許取得者は毎年八百ないし千人いるから十分採用可能である。

施設設備については来年度、高等学校施設基準検討委員会を設置して、新学習指導要領に必要な家庭科の施設基準を設けたいと思っている。生徒減に伴う余裕教室等の活用も考えている。現在工業高校二九校中二十校には家庭科の特別教室がないが、当然平成六年までに設置したいと考えている。

Q 共修の実施には、施設設備と家庭科教員の数の面の他に、学校全体の理解が必要だと思いが、全教職員の意識調査をせよ。

A したことはないが、今後研究したい。

Q いわゆる代替措置ができるという附則について、当分の間というのは、どう理解しているか。

A 施設が整うまでと理解している。学習指導要領の移行の状況等を踏まえて、平成六年までにできるだけ必要な家庭科の特別教室を整備したい。

Q まだまだ理解が十分でない実態であるから、施設整備についてガイドラインを作って参考にし、積極的な推進を考えては。

A 移行措置の基準とか資料とかいうような説明書をつくり、さらにその説明会を開き、多くの教職員に徹底していくつもりである。

新学習指導要領が出てからの今回の質疑応答では具体的な数字の追求ができました。このことは、三井都議他、今迄の議会質問、文書質問の積み重ねの上に成し得たものと思われまふ。国会での文部省答弁と、地方自治体の教育庁の答弁とを平行して追求していかなければ、共修の具体策を引き出せないということも明らかにしました。これまでは東京地域以外の自治体の状態が把握しづらい状況にありましたが、全国に女性議員が多数誕生したことでもあり、男女平等社会構築のために重要な家庭科の男女共修問題に積極的にかわってくださるよう、各地域で働きかけて欲しいと思います。

今回の答弁の中で気になったのは、生徒減に伴う教員全体数減の中で、一九九四年と九五年度の二カ年に家庭科の教員の二五〇人新採用が果して可能なのか、可能にする施策があるのかということです。また、私立男子校への対策はどうなっているのかが知りたいところです。

各地の状況をぜひお知らせください。

## 第35回

### 日本母親大会の総括

榎木 稲子

1. 地元愛知県の一万五千人を加えて近年最高の三万人の参加者を集め、初めて大会速報第8号までを発行して進められました。

#### 分科会

42テーマ・88分科会で開かれました。

4つの大きな柱(①子ども・教育 ②くらし・権利 ③平和・民主主義 ④母親運動)

に分かれ、①の柱参加者約47%、②の柱参加者38%で、①②の柱に85%の参加者が集中しました。然し少なかった③の柱でも「天皇制がこれほど語られたことは初めて」との声がありました。

見学分科会は ①「トヨタの町」で二交替六八〇人で一日千台の自動車を組立て、一台の所要時間56秒という流れ作業の見学 ②佐美・各務原の広大な基地見学と安売を考える ③名古屋港に悪名高い野積みの輸入食品をみるなど大変好評でした。

#### 全体会

記念講演は「いまを生きる母親達」の演題で、塩田庄兵衛都立大・立命館大学名誉教授が「未来をひらく母親の役割」を語って、参加の母親達を励まされました。大物産展・母親運動展・今日の運動がシュプレヒコール・合唱等多彩な表現で展示或は展開され、盛り上りました。

#### 財政

も赤字にならずに済みそうです。

#### 2. 大会決議申入れ

9月26日・27日の両日14都道府県150人の参加で、60項目の大会決議の申し入れ行動を行いました。27日は、花原二郎法政大教授から「90年度予算編成をめぐる情勢——日米構造摩擦と消費税を中心に——」の話を聞いたあと午後一時半から、それぞれの関係省庁、アメリカ大使館、JR東日本等へ数人宛わかれて大会決議の要請書を持っていきましました。

3. 第36回日本母親大会は左記迄内定しました。①担当・千葉県母親連絡会 協力・神奈川県、埼玉、茨城、東京東部 支援・関東ブロック 開催地・幕張メッセ 日程・一九九〇年7月28日・29日 記念講演・一番ヶ瀬康子 日本女子大教授、今から予定して参加できるように計画をたててください。

# 国際婦人年日本大会の 決議を実現するための

## 連絡会報告

中島 里美

### 全女性国會議員との懇談会

九月二八日衆参の全女性議員との懇談会が参議院議員会館で開かれた。冒頭の挨拶で森山真弓官房長官は「今日の集りはお仲間の会という感じがする。いよいよ覚悟をきめて官房長官をやろうと思った時市川房枝さんの顔が浮んだ」と語った。各議員の自己紹介と取組んでいきたいテーマが語られた。参加二九名の議員のほとんどすべての人が男女平等については十分な認識があり、私たちの運動が一層やりやすくなると感じ大変心強かった。田中美智子（共産）氏は今迄は男性のスキヤンダルを取上げただけで懲罰委員会にかけられた時代があり、女はやきもち焼きであると言われたと語り、乾晴美氏（連合）は保健体育の教師であったが男尊女卑は性の問題から取り組む必要ありと発言し、日下部禮代子氏

（社会）は日本の女性高令者の自殺率は世界一であると指摘し、清水澄子氏（社会）は女性問題省を考えたい、また女性が政治参加することはどんなにいいことを証明してきたいと語った。  
女性議員がふえたといっても衆議院では五十二名中まだ七名である。両院合わせて全体の五パーセントにすぎない。

### 文部省の生涯学習構想 についてヒヤリング

十月十六日文部省生涯学習局生涯学習振興課の山口敏氏を招き話を聞いた。生涯学習とは自分の欲するものを欲する時学ぶことと定義され、振興課では、一、生涯学習ではどんな教育が求められているかの調査、二、住民に講座について十分宣伝する為の方法の研究、三、学習相談にのること、四、地域でのボランティアのリーダーとなる奨励策等について検討中との事、生涯教育と学校教育の関係は学校教育を生涯教育の一環と考える、大学教育を開かれたものにする等が話された。山口氏の話の後多くの疑問がだされ、生涯教育構想と男女平等教育の関係等について文部省ともしっかりと突込んだ話し合いが必要ということに

### 教育問題小委員会

十一月十三日教育問題小委員会が開かれ前回文部省の生涯教育に対する五二団体からの要望についての話し合いと一連の女性殺害事件と関連があると思われるアダルトビデオ、ホラービデオについての話し合いがもたれた。参加者の疑問の中には学校教育のさまざまな矛盾（一クラスの生徒数、受験体制、管理教育、男女平等教育）等を少しも解決せずに看板だけ生涯学習にぬりかえても信用出来ない、今迄社会教育の中でやってきた婦人問題などが圧迫されたりしないか等もあった。  
アダルトビデオ等についてはすでに研究会をもったり、行動を起している新日本婦人会の話を聞いた。五二団体としてもNHKや民放やビデオ協会の人と直接話をしたり、スエーデンのボルノに関連する法律の勉強をしたりする必要があるのでは十二月の全体会に提起しようということになった。私自身も昨日地域の女性達と「ギニービッグ」をみたが、全部まともには見ていられなかった。「血肉の華」は埼玉では有害ビデオに指定され廃棄処分になっており見ることは出来なかった。

## 世話人会報告

△9月30日▽

- 各世話人の報告から
- ◆母親大会総括会議、日本子どもを守る会の大会案内。
- ◆52団体「連絡会」の、衆参議員との懇談会。
- ◆ウィ書房主催「コンピュータは家庭科を変える」11月26日、授業とシンポジウム。
- 話し合いから
- ◆男子校のアンケート回答について、学校名は公表しないと約束しているのを、守る。
- ◆アジア・アフリカ各国の行政官が来日し、研修会があり、和田世話人が参加し、教育の分野を担当し、ナイロビの資料を配布。

### ●今後の行動

- ◆衆参議員へのアンケートを送送する。
- ◆地域の状況について世話人会に集める。
- ◆男女共修を現実のものとするための「手引書」作りの段どり（予算申請の方法など）
- ◆男子校のアンケート回答集計——持田（大西 歩）
- △10月28日▽
- 報告
- ◆母親大会——分科会では教育関係への参加が多かった。（13ページ参照）
- ◆国會議員へのアンケート作業の進捗状況。
- ◆男子校向けのアンケート回収状況と集計の一部、回答内容の傾向について。
- ◆江田五月事務所訪問。
- ◆全国高等学校長会会報内容について。

のがありました。

雑誌クロワッサンの9月25日号に会が紹介され、電話をいただいたりしました。  
「女が三人集まれば最高の可能性」といういろんな分野の女性グループの活動を伝える特集の中で、会の発足時のこと、なぜ共修を求めるのか、なぜ共修が決まったか、そして代表を置かない当会の運営方法など、二頁にわたったもの。反響の中には「共修に決まったのに何やるの」とか「家庭科の中味を変える運動はやってるの」という

新学習指導要領が出、指導書が出されれば、いよいよ共修家庭科の全容が見えてきます。生活、をテーマにした多くの雑誌が取り上げてくれれば、教育に目が向いていない層への働きかけができるのではないのでしょうか。ほとんどの雑誌に読者の頁がありますから、一人でもできる運動の一つとして投稿してみませんか。  
（石川 由紀）

### ◆都議会報告。（12ページ参照）

- ◆新学習指導要領（義務制）の伝達講習では指導要領の文面をオーム返しに言っただけ。
- ◆大田区婦人問題対策室の機関誌にすすめる会の紹介が掲載された。
- ◆男性の家庭科教師の組織化が始まっている。
- ◆生涯教育について予算がでたが、生涯教育基盤がバーンと出た。
- ◆高校の指導書が九月に発表される予定だったが大幅に遅れる。
- 協議
- ◆男子校向けアンケートのまとめについて。
- ◆冬号の内容と執筆分担について。

△11月27日▽

- ① 男子アンケートの問題に時間の殆んどを使いました。集計担当の持田さんからの報告のあと、感想、意見を出し合い、回答のあった学校には会報を送ること、学校名は決して公表しないことなどを確認しました。
- ② 高校の指導書の発行は大巾に遅れて来年になること、高校の新教育課程の移行措置について、文部省がマスコミのための説明会を開いたことなどが話題になりました。
- ③ ①・②に関連して会報冬号の内容、分担について、多少変更することになりました。

（梶谷 典子）



## また一つ難問

### 高校の移行措置

半田たつ子

一九九四年度から高校の新学習指導要領が実施されますが、文部省は十一月三十日、移行措置を告示しました。新聞は「日の丸・君が代の義務化、高校も来春から」の見出しで報じました。告示内容は、いずれも、先取りして実施することが「できる」という表現なのに、特別活動だけが、新学習指導要領の「規定によるものとする」と強制しています。入学式・卒業式などの日の丸・君が代を事実上義務化した規定も、この特別活動の一つであるところから、新聞は、これを見出しとしたのでしょう。

1. 総則の特例で、新設の「その他の教科・科目」や、家庭・農業・工業・商業・水産の新科目「課題研究」、更に、普通科でも、情報、職業、技術などの教科・科目をいち早く設けることができます。いわゆる高校の弾

力化策や、情報・技術教育に力を入れていることが分かります。

私達の関心、家庭科については、「家庭一般」をすべての男子に履修させる場合、全ての男子・女子の「体育」の指導は、新学習指導要領によるものとして、全日制・普通科のすべての男女が「9単位を下らないようにするものとする」と記しています。

NHK十二月一日の「モーニングワイド」では、文部省は、積極的に男子の家庭科履修を進めたいのに、現場の方が対応できていないようなニュアンスを感じさせました。文部省もここに至っては、衣を着かえたか、と受止めた方もいたかもしれません。

BUT御注意あれ!

2. 各教科等の特例の「保健体育の特例」で、その全部または一部を「高等学校学習指導要領の規定によることができる」とあります。男女共学校で、来春から家庭一般をすべての男子に履修させることができるが、その際、体育は男女とも9単位を下ってはならないのです。現在は、女子7単位、男子11単位で、その差4単位が女子必修の家庭一般になっていることは、御承知の通り。

だから男女とも体育9単位を下らずに、男女とも家庭一般4単位を履修させるためには

他教科の時間を2単位回さなければなりません。4(家庭一般)+7(体育)≧11 4+9≧13 従って2単位オーバー。他のどの教科が2単位放出するでしょうか?

いち早く準備を整え、職員会議で奮闘し、来春から共修OKとなった学校でも、今度の移行措置の告示は、男女共に家庭一般を学ばせるなら、女子の体育を2単位ふやせ、というのです。他教科から2単位ひねり出さない限り、家庭一般は2単位しかできなくなりま

す。丸四年、移行措置の間、2単位の家庭一般を実施してきて、いよいよ一九九四年を迎えたとき、家庭一般4単位の時間割を組めるでしょうか? 非常に積極的で、力のある先生は、はたと悩まれることでしょう。また、完全実施の時のことは、別に考えるとしても、今、女子の家庭一般が2単位に減ることには、納得できない方がほとんどだと思います。男女共に教える日をまちわびて、一日も早く!と願っていた家庭科の先生に「さあどうぞ、その代わり、女子は体育に2単位回しなさい」というものなのです。そう一言も述べずに、でもそうしなければ、移行措置を実施できないのです。文部省のなんとこすからさ! また一つ、難問が生じました。